



学校だより

2026年度6月号
藤沢市立大越小学校
校長 丸谷 英之

教育目標 心豊かで思いやりがあり、たくましく生きる児童の育成
「やさしく かしこく たくましく」

紫陽花の花が色づき、季節は春から夏へと移り変わろうとしています。雨の日が多くなる季節。外で思い切り遊べない日もありますが、このような時期だからこそ、落ち着いて読書に親しんだり、友達との関わりを深めたりするよい機会でもあります。教室では、子どもたちが互いに声を掛け合いながら学び合う姿が多く見られ、日々の成長を頼もしく感じています。

◇挑戦する心、支え合う心 ～市内体育大会で見た6年生の力～

本市内体育大会に、本校の6年生が学校代表として参加しました。短距離走や中距離の800m走、走高跳び、走り幅跳び、ソフトボール投げ、大縄、リレーなどの種目で、一人一人が練習の成果を発揮し、声を掛け合い全力で競技に取り組む姿が見られました。

また、自校の仲間への応援はもちろん、近くに座った他校の児童にも温かい声援を送る姿があり、大変感心しました。競技に真剣に挑戦する姿と、仲間や他校の友達を応援する優しさに、本校6年生の素晴らしさを感じました。学校の代表として立派な活躍でした。



◇ 地域とともにある学校づくりを目指して ～学校運営協議会の紹介～

本校では、保護者や地域の皆様と学校が目標や課題を共有し、子どもたちの健やかな成長を支えるため、「学校運営協議会」を設置しています。学校運営協議会を設置している学校を「コミュニティスクール」と言います。

学校運営協議会は、保護者代表、地域住民代表、学識経験者、関係機関の方々などで構成され、学校運営の基本方針の承認や教育活動への意見・提案を行う組織です。今年度の委員は次の皆様です。

齊藤 正枝 様	青少年育成協力会副会長 善行ふれあいネットワーク会長
萩原 茉莉子様	藤沢市立小学校学習支援員・介助員、前 PTA 会長
石塚 義之様	善行市民センター長
佐久間 健一様	善行あそび塾代表 善行地区郷土づくり推進会議委員
岩澤 貴子様	主任児童委員 お話し会
石井 世悟様	令和7年度・令和8年度 PTA 会長
一瀬 今日子様	元藤沢市立小学校長
佐藤 康智様	善行市民センター福祉担当
熊谷 晴香様	社会福祉協議会 善行地区 CSW
丸谷 英之	大越小学校長
杉野 牧子	大越小学校児童支援担当教諭（みんなの先生）

今年度は、5月に開催した第1回学校運営協議会にて、各学年・学級の教員の紹介の時間を設け、4月からの学年の様子や地域学習で協力依頼をしたいことなど、情報交換を行いました。教職員と委員の皆さんとの顔の見える関係性の中で、子どもたちのために力を合わせていきたいと考えております。

協議の時間には、今年度の学校経営方針や教育活動について説明し、委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。また、子どもたちの安全確保や地域との連携の充実、学習支援活動などについて協議を行いました。

今後も学校運営協議会を中心に、地域と学校が連携・協働しながら、「地域とともにある学校づくり」を進めてまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



◇「おはようボランティア」の皆様いつもありがとうございます

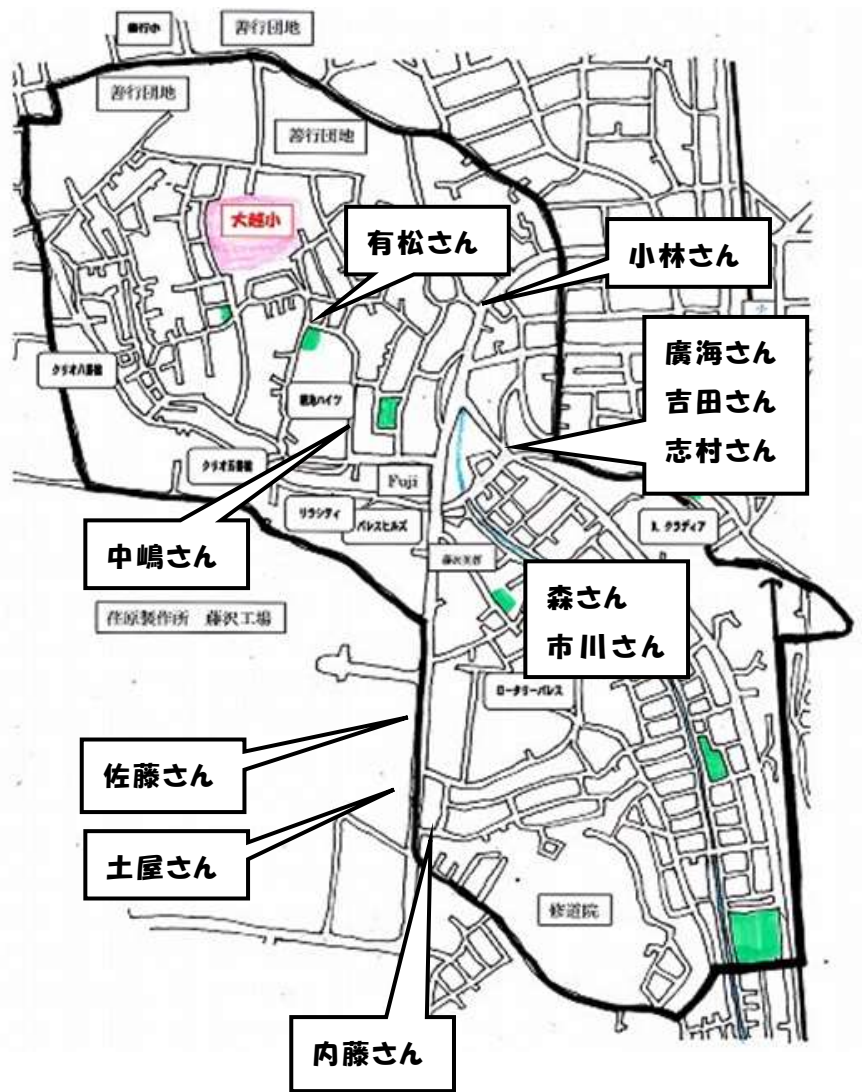
毎朝、子どもたちの登校を温かく見守ってくださっている「おはようボランティア」の皆様を紹介します。

交通量の多い交差点や通学路に立ち、「おはようございます」と笑顔で声をかけながら、子どもたちの安全を見守ってくださっています。地域の皆様の温かな見守りは、子どもたちにとって大きな安心につながっています。

右の地図は、ボランティアの皆様が活動して下さっている主な場所です。

毎日の見守り活動に、心より感謝申し上げます。

6月の朝会では、学校に来てくださった「おはようボランティア」の皆さんから、自己紹介とともに子どもたちへの温かな一言メッセージをいただきました。



■ 1年：そら豆皮むき

■ おっこし：校外学習（森ん子）

■ 3年：初めての毛筆



■ 4年社会：ごみはどこへ

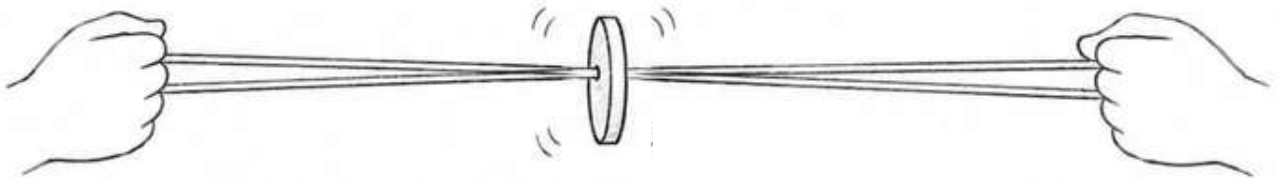
■ 5年国語：説明文

■ 2年生活：学校探検に向けて



◇ 雨の日の楽しみの見つけ方 ～ぶんぶんごまのすすめ～

江戸時代後期から子どもたちに親しまれてきた手作り玩具「ぶんぶんごま」。竹や厚紙、ボール紙などに穴を開けてひもを通し、回転とひもの弾力だけで音を立てて回るシンプルなおもちゃです。回転すると鳴る音が松の木を吹き抜ける風の音に似ていることから、昔は「松風ごま」とも呼ばれていたそうです。



大越小学校のランチルームにて年間を通して子どもたちに工作や伝承遊び、おもちゃづくりの活動をされている「善行あそび塾」さんの5月の取組が「ぶんぶんごまづくり」でした。活動の予告として校長室前の廊下にはおもちゃの実物とポスターを掲示して紹介したところ、休み時間に立ち寄って楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が見られました。

その様子を見て、私が学級担任をしていた頃、雨の日の遊びとして子どもたちと一緒に「ぶんぶんごま」を作ったことを懐かしく思い出しました。初めのうちはなかなか回せず、「難しいよ」「大人だからできるんだよ」と苦戦する子どもたくさんいました。しかし、何度も挑戦していた一人が回せるようになると、その迫力ある音と回転する様子に周りの子どもたちも刺激を受け、再び挑戦を始めました。そして、「こうやるんだよ」「簡単だよ」と教え合いながら、あっという間にできる子の輪が広がっていきました。教室中に響く「ビューン、ビューン」という音と、子どもたちの笑顔が今でも思い出されます。



さらに興味をもった子どもたちは、十字型や風切り音が出る工夫を加えたもの、半分ずつ色分けしたもの（赤色＋青色＝回転すると紫色）、ひし形や丸型など、自分だけの「ぶんぶんごま」を作って楽しんでいました。子どもたちの発想力や挑戦する力には、本当に驚かされました。

そのような思い出もあり、6月の朝会では子どもたちに「ぶんぶんごま」を紹介しました。本やインターネットで調べると、さまざまな作り方や工夫が見つかります。ぜひ、自分だけの「ぶんぶんごま」づくりにも挑戦してみてください。

これから梅雨の季節を迎えます。お絵描き、読書、折り紙、おもちゃづくりなど、室内だからこそ楽しめることはたくさんあります。雨の日ならではの過ごし方を見つけ、自分なりに工夫しながら楽しい時間を過ごしてほしいと思います。